

第4回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2021年9月1日（水） 午前9時00分から午前10時06分
2. 開催場所：Zoomを用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、小田啓二、川島恒憲、中村美和、浜田信行、笠井篤、辻本 忠、秋吉優史、福士政広、榎本 敦
4. 紹介資料
 - 資料1
ウラン加工工場(JCO)臨界事故の教訓
 - 資料2
X線被ばく事故の概要
5. 議事
 - (1) ウラン加工工場(JCO)臨界事故の教訓（意見発表）

資料1に基づき、笠井委員よりウラン燃料加工工場で発生した臨界事故概要及び教訓に関する意見発表があった。

 - 原子力業界全体に対する安全神話に基づく過信から事故が生じたという厳しい指摘について、原子力における安全文化の醸成が課題である。
 - 周辺住民の中性子による被ばく線量評価の技術的課題の紹介があり、周辺住民の所持品等からの線量評価手法が特徴的である。
 - 委員から以下の意見があった。
 - ✓ 産業界、学術領域等、各分野における安全文化のアプローチの違い、同分野においても特徴毎の違いについて注目すべきである。今後のWGで議論を深めていくことが望まれる。
 - (2) X線被ばく事故の概要（意見発表）

資料2に基づき、辻本委員よりエックス線被ばく事故の概要に関する意見発表があった。

 - 事故概要紹介に基づき、特に被ばく源となったメッキ膜厚測定装置の概要・仕様等についての調査、及び事故発災事業所におけるX線作業主任者の役割・作業手順書等の整備状況についての調査の必要性について指摘があった。
 - 委員から以下の意見があった。
 - ✓ 被ばく源となった装置及び装置を使用する安全管理について、一般的にどのようなになっているか、具体的に調査するのがよい。
 - ✓ WGのあり方について公平中立な事故原因調査が期待されている一方で、原則公開情報に基づく検討WGとしてのミッションを堅持し、関係各所からの非公開情報の取扱いには十分な配慮が必要である。
 - ✓ X線装置の点検時の事故は医療分野でも頻発しており、特に作業者のミス等で生じることが多い。今後のWG議論を深めていくことが望まれる。
 - (3) その他
 - WGメンバーに事前配布されていた第3回WGの議事要旨（案）が原案のまま承認された。
 - 本WGで使用された資料は原則公開とするが、表現上の誤解を避ける意味や、著作権の問題に対応することから、一部の資料を修正したり、外したり、場合によ

っては追記する等、公開前にご発表の委員と事務局との間で相談・調整する点について、委員長より提案があり、了承された。なお、資料公開時に著作権等の処理が必要となった場合、原則としてプレゼンした委員自身で手続きをお願いする旨、周知があった。

- 第5回WGは9月10日（金）9-10時の開催を予定している。
- 第5回は、中村委員と浜田委員より関連情報の提供をお願いする。

以上